平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 27 年 6 月 16 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 25.0～25.8℃、南のち東南東の風 1.0～2.5m※で海は平穏だった。当日は大潮で、10 時 43 分干潮、17 時 32 分満潮だった（東京都港湾局のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点ではいずれも、4 月調査と同じくボラの稚魚や、ビリンゴ等のハゼ科魚類の稚魚が確認された他、クロダイやサッパの稚魚等も新たに確認された。

2015/6/16	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
作業時刻	9：46～10：30	12：30～13：40	14：25～15：05
水温（℃）	24.2	24.8	23.9
塩分	19.3	11.3	22.3
透視度（cm）	35	27	32
DO（mg/L）	9.5	8.8	14.9
DO 飽和度（%）	128	115	205
波浪（m）	0.1 未満	0.1	0.1 未満
pH	8.1	8.6	8.9
水の臭気	弱下水混カビ臭	弱カビ臭	カビ臭
備考	赤潮気味	赤潮気味	赤潮

注）塩分、DO、ｐＨの値は計器測定値。

※風速計が途中で故障したため、当日の風向風速は、気象庁アメダス「江戸川臨海」、環境省大気汚染物質広域監視システム（そらまめ君）「お台場」の各地点調査時刻の該当データを参考とし記載した。

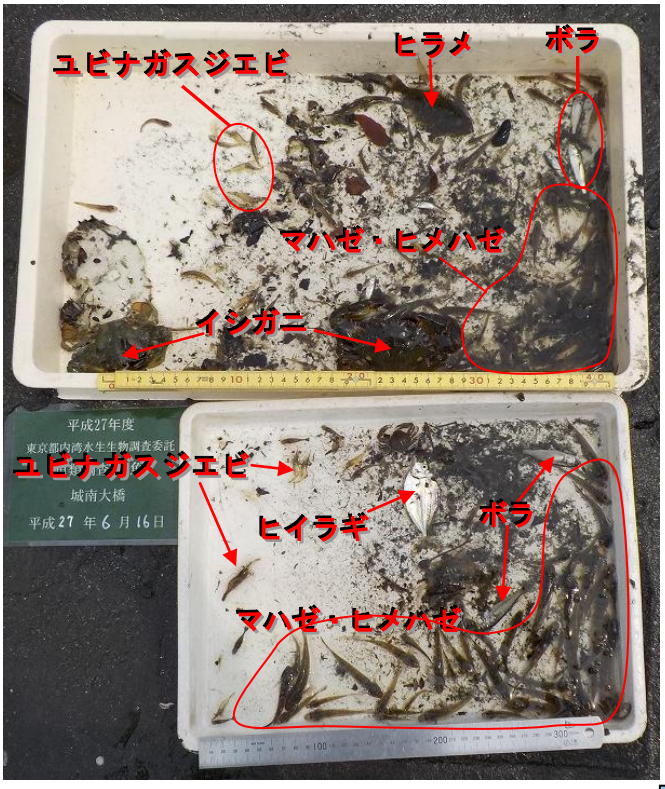
●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	城南大橋	葛西人工渚	お台場海浜公園
魚種（多い順[注]）	マハゼ（m）	エドハゼ（G）	ビリンゴ（m）
	ヒメハゼ（c）	サッパ（G）	クロダイ（c）
	ビリンゴ（c）	マハゼ（c）	マハゼ（+）
	ボラ（+）	ボラ（+）	エドハゼ（+）
	ヒラメ（r）	クサフグ（r）	ニクハゼ（+）
魚類以外	ニホンイサザアミ（m）	ニホンイサザアミ（G）	ニホンイサザアミ（G）
	エビジャコ属（c）	アキアミ（m）	アサリ（r）
備考	沖合の下層の DO が低かった。	大量のイサザアミが採取された。	観光客が水遊びをしていた。

注）表中の（）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋　採取試料



地曳網にはマハゼ、ヒメハゼ等のハゼ科稚魚のほかに、ウグイ属、ボラ、クロダイ、ヒラメ等の稚魚や、ヒイラギの未成魚が捕獲され、確認種数は 3 地点の中で最も多かった。沖合の下層では貧酸素水塊が発生していた。

調査地点付近ではコアジサシが空中からダイビングして採餌を行っていた。

マルタの稚魚と思われる。若魚は東京湾の内湾汽水域で生活し、成魚は産卵期に多摩川等を遡上する。

東京都内湾に多く生息する。産卵期は 3～6 月で、初夏に稚魚が出現するが、本調査での捕獲記録は断続的で個体数も少ない。

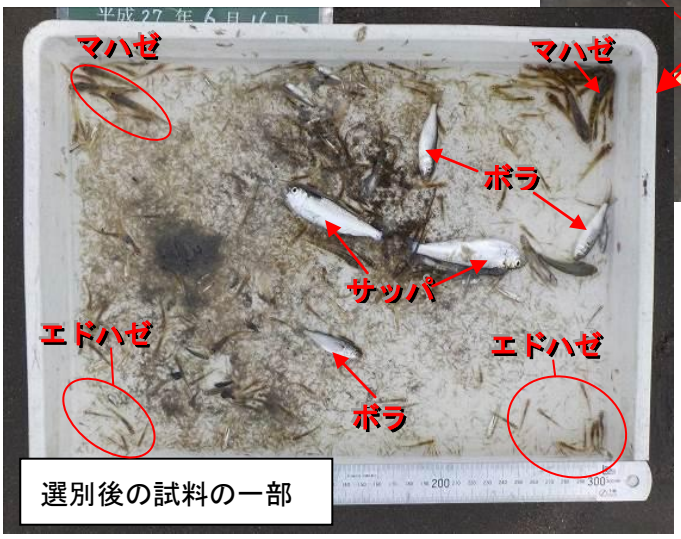
4 月に本調査地点で捕獲されたボラは、全長 3cm 程度であったが、今回は 6cm 以上にまで、成長していた。

東京都内湾沿岸の砂泥底に多く生息する。産卵期は 5 月～7 月で、例年 8 月に稚魚が捕獲される。

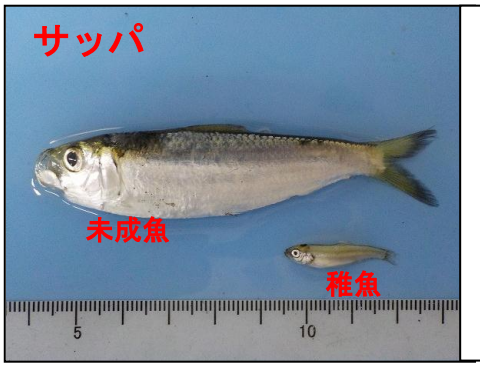
東京湾奥部での生息数は少ない。城南大橋では、平成 14 年 6 月以降捕獲記録は無く、今回 13 年ぶりに捕獲された。

葛西人工渚　採取試料

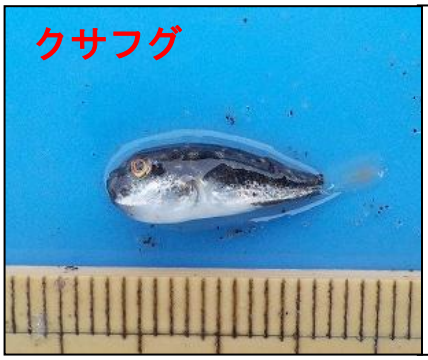
4 月調査と同様イサザアミ類が多く捕獲され、その量は 10kg 以上であった。当日の南風と上潮により、干潟域に集められたと思われる。稚魚はマハゼ、エドハゼのほか、サッパ、クサフグ等が捕獲された。



成魚でも 5cm 程の小型のハゼで、葛西人口渚の干潟に多く生息する。東京都レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類選定種である。



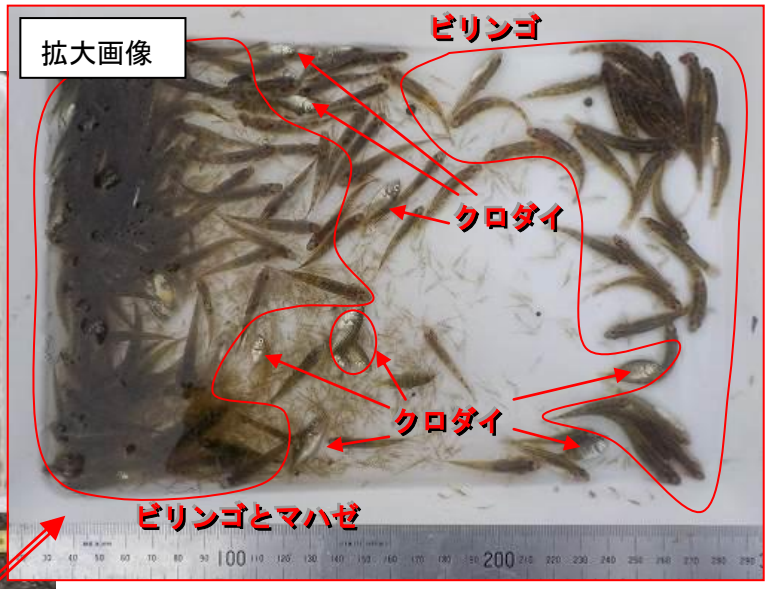
東京都内湾に多く生息する。産卵期は春～夏で、今回は、今年生まれの稚魚と、昨年生まれの未成魚が同時捕獲された。



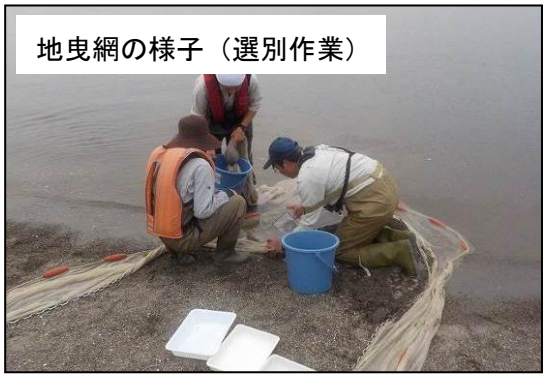
産卵期は 5 月～7 月で、東京湾での産卵場は三浦半島で、確認された稚魚は、潮流に乗って流れ着いたと思われる。

お台場海浜公園　採取試料

4 月調査と同様イサザアミ類が捕獲されたが、その量は少なかった。稚魚も種類数、個体数とも少なかった。当日は赤潮（*Heterocapsa lanceolata*）が発生しており、沖合の下層水の溶存酸素が低く、上潮に伴う稚魚の移入が少なかったことが要因として推定される。



4 月に本調査地点で捕獲されたマハゼは、全長 2cm 程度であったが、今回は 5cm 以上にまで、成長していた。

4 月に本調査地点で捕獲されたビリンゴは、全長 2cm 程度であったが、今回は 4cm 以上にまで、成長していた。

城南大橋で捕獲されたクロダイは、全長 1.5cm 程度であったが、お台場では、3cm 近くまで成長していた。